

## 令和6年度施設自己評価の結果について

公表：令和7年1月14日

事業所名

やまぼうし

国から示された「放課後等デイサービスガイドライン」に基づき、事業所職員が自己評価を実施しました。事業所における課題点及び改善すべき点を今一度確認し、今後の当会及び当事業所の運営に活かしていきます。今後ともご家族様と共によりよい事業所を目指していきたいと思っておりますので、ご理解・ご協力いただきますよう、お願いいたします。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	3	3	0	利用児童の人数や状況に応じて中庭、部屋など生活場所を分けて過ごしている。	中・高生の子が増え体もバギーも大きくなっておりフロアスペースの確保の課題があり、バギーの置き場所は検討している。
	②	職員の配置数は適切である	3	2	1		法的な配置基準は満たしているが、介助等で人が欲しい時はこでまり職員がフォローに入っている。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	5	1	0		利用児童の年齢が小2～高3と幅が広い為、小学校低学年の子は便座が大きく使いにくさがある。子どもの体格に合わせて便座シートを使用し対応している。
業務 改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	6	0	0		
	⑤	保護者向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	0	0	毎年利用者満足度調査を行い業務改善に繋げている。	
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	0	0		
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5	1	0	市の実地指導、法人の内部監査を行っている。	
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6	0	0	正規職員だけでなく、パート職員も研修に参加できるよう計画している。	
	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6	0	0	定期的な面談の中でアセスメントを行い、聞き取った内容を計画書に反映させている。	

適切な支援の提供	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	1	0		標準化されたツールを使用しアセスメントを実施していることを職員全体に周知していく。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	0	0	前日に職員間で話し合い、大まかな計画を立て準備を進めている。	
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	1	0		
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6	0	0		
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6	0	0		
適切な支援の提供	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	1	0	平日体制の時は支援前には職員間で打ち合わせの時間を作り、情報共有や確認を行っている。	長期休みは時間が取れない場合もある為、申し送りを印刷し職員間で情報共有できるようにしていく。
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	3	0		閉所時間ぎりぎりまで子どもがいることや長期休みは時間が取れない場合がある為、申し送りを印刷し職員間で情報共有できるようにしていく。
	⑰	日々の支援に関して正しく記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	1	0		
	⑱	定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断している	6	0	0	6ヶ月間でモニタリングを行い計画書の見直しをしている。	
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	5	1	0		
	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	0	0		
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	6	0	0	毎月学校から行事予定・下校時刻表をもらい送迎の連絡調整をしている。年に1回放デイ・学校連絡会に参加し情報共有している。	

関係機関や保護者との連携	⑳	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	5	1	0	主治医等との連絡を保護者を通して行い、情報の伝達や確認をしている。	
	㉑	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との情報共有と相互理解を努めている	6	0	0	利用前に相手側の事業所に訪問し直接様子を見て話を聞いている。	
	㉒	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	5	1	0	新規利用が決まった段階で他事業所での様子を見学に行き、情報共有している。	
	㉓	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	0	0	療育支援事業でOT,PTが来所しiPadをもらい支援に活かしている。	
	㉔	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	6	0	0	併設しているこども園の園児とは日々交流をしている。毎年夏休みに一部の子どもたちが近隣の児童クラブに行き交流する機会を作っている。	
	㉕	(地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加している	4	0	0		
	㉖	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共有理解を持っている	6	0	0	連絡帳でのやりとりや送迎時に保護者に様子を伝えコミュニケーションを図っている。	
	㉗	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	2	3	0		ペアトレの研修参加は予定しているが、保護者に対して実践できていない。
保護者への説明責任等	㉘	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	0	0	契約時に説明している。	
	㉙	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	0	0	毎日の送迎の中で保護者に声を掛け相談に応じている。	
	㉚	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5	0	0	年2回保護者会を開催し保護者同士の交流の場としている。	
	㉛	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6	0	0		
	㉜	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	0	0	おたより、行事予定、保健だよりなどを発行している。	
	㉝	個人情報に十分注意している	6	0	0	個人情報の書物は鍵のかかる書庫で管理している。	
	㉞	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	0	0		
	㉟	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4	1	0		

非常時等の対応	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	5	1	0	利用に関する書類に記載し契約時や懇談会の問いに保護者に伝えている。
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	0	0	毎月こども園と合同で避難訓練を実施している。
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	0	0	虐待研修を行い、その中で虐待セルフチェックをしている。
	④⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、個別支援計画に記載している	6	0	0	
	④⑫	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	0	0	利用前の面談でアレルギーの確認を行い、対応が必要な時は生活管理指導票を医師に書いてもらっている。
	④⑬	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	0	0	職員それぞれで事例集を確認する時間が作れないので、毎月の職員会議で報告し共有できるようにしている。

